

発行所 **日 本 基 督 教 団**  
 169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
 日本キリスト教会館内 電話03(3202)0546  
 FAX03(3207)3918  
 URL <http://uccj.org>  
 発行人 網 中 彰 子  
 編集主筆 嶋 田 恵 悟  
 印刷所 株式会社きかんし





## ▼機構改定検討委員会▲

## 教団総会のあり方を検討

1月21日、第43総会期第1回教団機構改定検討委員会が教団会議室で開催された。この委員会は昨年12月の第1回常議員会で設置が決定され、黒田若雄・藤掛順一・久世昭夫の5名が委員として選任されていた。

これまで教団の機構について検討された際、いづれの機会においても教団総会のありかが課題としていくこととした。

## ▼予算決算委員会▲

## 今期の組織、委員会予定を協議

審議にあたり、委員長に黒田若雄、書記に久世昭夫を選任し、また本委員会は「常議員会の意向をふまえて委員会活動を行う」、「第43回教団総会における決議『日本基督教団の全体教会としての一体性を確認する件』に明らかにされている教団形成の基本姿勢を土台

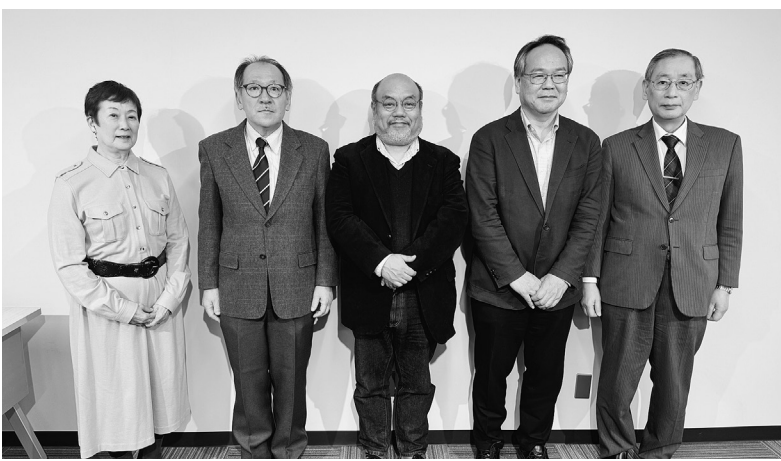
第43総会期第1回予算決算委員会が、1月31日、教団3階会議室で行われた。今期の委員並びに委員会組織は次の通り。委員長・宇田真、書記・川村尚弘、工藤俊一、佐野明子、田村毅朗、吉澤永。また、2025年4月からは、網中総幹事が出版局の局長代行を兼務することが報告された。次に、道家紀一総務幹事よ

は、12月28日に第43総会期第1回責任役員会を開催し、教団特別財産（非法人教会・伝道所の預かり財産）の処理が行われたことが報告された。更に、新総会期の動きが開始したことが報告された。また、2025年4月からは、網中総幹事が出版局の局長代行を兼務することが報告された。次に、道家紀一総務幹事よ

2026年秋に予定されている第44回教団総会に機構改定に関する何らかの議案を提出するためには、遅くとも2026年2月の常議員会には当委員会から素案を提出する必要があることを見据えて今後の作業を進めることとした。

黒田委員長は、有意義な議論のために当面は対面での委員会を開催することが望ましい、との考えを示し、次回の委員会は3月19日に教団会議室で行うこととした。

（久世昭夫氏）



左から、河田、豊川各委員、久世書記、黒田委員長、藤掛委員



左から鈴木齋監査、吉澤、宇田委員長、川村書記、服部能幸監査。ズーム画面上段左から、田村、佐野各委員、下段左から、工藤委員、長島恵子監査

り、12月28日に第43総会期第1回責任役員会を開催し、教団特別財産（非法人教会・伝道所の預かり財産）の処理が行われたことが報告された。更に、新総会期の動きが開始したことが報告された。また、2025年4月からは、網中総幹事が出版局の局長代行を兼務することが報告された。次に、道家紀一総務幹事よ

は、12月28日に第43総会期第1回責任役員会を開催し、教団特別財産（非法人教会・伝道所の預かり財産）の処理が行われたことが報告された。更に、新総会期の動きが開始したことが報告された。また、2025年4月からは、網中総幹事が出版局の局長代行を兼務することが報告された。次に、道家紀一総務幹事よ

## 154回 神奈川教区総会報告

## 教師試験が「不当とまでは言えない」との決議が議案化

回の教師試験が不当とまでは言えない」という決議が行われてきた。しかしこの採決はこれまで、議案ではなく議長が議場で問うており、位置づけが不明確との指摘があった。常置委員会で改めて経緯と意義が確認され議論されること、常置委員会議事録と総会議事録にも記録が残ることなどの意義があると、前回の教区総会で議案化の要望がでていた。今回はそれに応えて議案化され、按手の議案の前に第1号議案として提出された。

この議案は、「今なお解決されていない教師検定問題を巡る問いについて、教区が誠実に向き合い、問題の解決に向けて歩みを深める決意をもって、議案第2号の按手札の執行を、総会に上程することを決議する」という内容で、第2号議案が第2号議案に影響するのは内容的にも形式的にもおかしい、「経緯をふまえる」と第2号議案と切り離すことはできない、「諸問題の内容が広く認識されておらず、中には教団において、引き継がない」とが議決されているもの



左から、宮川副議長、飯田議長、難波書記

教団HPでは、毎月メッセージ動画（約10分）を配信しています

3月

▶服部 修牧師

（蕃山町教会）



是非ご視聴ください。尚、HPにはテキストメッセージもあります。

【議長】飯田輝明（溝ノ口）、【副議長】宮川忠大

【議長】飯田輝明（溝ノ口）、【副議長】宮川忠大

【議長】飯田輝明（溝ノ口）、【副議長】宮川忠大

【議長】飯田輝明（溝ノ口）、【副議長】宮川忠大

【議長】飯田輝明（溝ノ口）、【副議長】宮川忠大



▼社会委員会▲

## 「複合災害への備え」を活動方針に



左から、秋間委員、大塚書記、高委員、眞壁委員長  
ズーム画面、長澤委員

第43総会期第1回社会委員会が、2月7日に教団会議室にて開催された。委員7名中2名は交渉中のため、現5名の委員の中で組織および役割分担を行った。委員長・眞壁厳、書記・大塚啓子、宣教委員会・眞壁厳・秋間文子、日本キリスト教社会事業同盟理事・秋間文子、日本キリスト教保育所同盟理事・高承和、日本キリスト教社会事業同盟・長澤道子。

秋間委員による開会礼拝をささげ、業務報告、会計報告、常議員会報告を受け協議に入った。まず前期社会委員会の申し送り事項を確認し、今期の活動について話し合った。前期から「日本キリスト教社会事業同盟」との関係を保ち、教団との関係がより密になっていくことを目指してきたが、今期もその活動を継続することとした。また、「教団救援対策室及び各教区との緊密な連携をもって今後予想される複合災害に対応していただきたい。災害揭示板やBCP（事業継続計画）などについても共

有できるとよい」との申し送りを受けて、今期も複合災害への備えを活動方針の一つとした。全国社会委員長会議は期の2年目（26年6月）に開催しテーマは「複合災害への備え」を継続する。

社会福祉施設援助金に關して、申請のあった4教区5施設の申請を認めたが、1施設は条件付き、1教区で2件の申請があった施設は折半という形で、1教区10万円ずつ援助することを決定した（委員会後に、1教区1施設を追加することを決定）。東北教区「いのちの家LETS」、東京教区「みんなのトイトイ食堂」、「子ども食堂三本松」、東海教区「子ども食堂そらのとり」、大阪教区「子どもの居場所Yuya」、兵庫教区「子ども食堂「マンナ」」。募金に關して、台湾地震救援募金より1千万円を24年12月24日台湾長老教会に送金した。同募金は25年3月末で閉じることをする。「ウクライナ救援募金」および「ガザ救援募金」は、25年3月末としての期限を12月末まで延長することを決議した。

「社会委員会通信」第52号は今年度中に発行し、まずは教団のホームページに掲載し、紙媒体は全国発送時に同封する形とした。（大塚啓子報）

▼牧会者とその家族のための相談室委員会▲

## キリストの力が相談者に宿るように

第43総会期第1回目の中で、「問題解決を目的としない」委員会は、相談室委員会だけではなにかと認識している。牧会の課題において、他者が介入して簡単に解決に至るようなものは少ない。むしろ「わたしは弱いときにこそ強い」と力強く語った使徒パウロのように、キリストの力が、相談者に宿るような活動が心掛けていきたいと願っている。

どんな試練の時にも、福音の喜びに生かされる

### 牧会者とその家族のための相談電話

☎ 03-6228-0016

毎週月曜日 10:00～16:00  
(12:00～13:00は休憩)

### 相談用メール

past.uccj@gmail.com

受理したメールは1週間以内に、ご回答致しますが、相談内容、相談件数等によっては、時間を要する場合もありますので、ご了承ください。

ことによって、祝福を受けることを信じて、この働きを担っていきたい。（吉澤 永報）

▼部落解放センター運営委員会▲

## 運営委員長、副委員長、常任運営委員を選出

第43総会期第1回運営委員会が1月30～31日に教団会議室（ズーム参加）にて開催。主な報告は以下の通り。

①内規に沿って運営委員長に鈴木柝、副委員長に飯塚拓也、書記に安達正樹、常任運営委員に上原恵、山内英子を選任。

②2025年3月25～27日に大阪・阿倍野で第26回部落解放ユースセミナー（仮称）が開催。

③第16回部落解放全国会議（奥羽教区・青森県にて、2025年10月7～9日開催）のテーマ

は「ゆがみに気づく第一歩」部落差別解消という「沖」を目指して。シンティ・ロマ音楽バンドによる集会和講演も行われた。音楽集会是東京・神戸でも開催予定。また第17回部落解放全国会議（2027年度）九州教区開催が九州教区常置委員会で承認されたとの報告があった。

④2027～2028年度にかけて「同和問題」に取り組む宗教教団連帯会議（同宗連）の議長教団を日本基督教団が担うが、藤盛勇紀教団副議長



後列左から、網中総幹事、成田信義、安達正樹、宮本義弘、金井創、足立こずえ、森なお、三吉明、佐藤貴仁、縣洋一、上野玲奈各委員。前列左から、谷本美樹、深見祥弘、加藤恵、鈴木柝、上原恵、山内英子各委員

（安達正樹報）

◆西日本5教区合同宣教研究協議会◆

## 「宣教課題としての貧困と格差の問題」

1月27～28日九州キリスト教会館にて第59回西日本5教区合同宣教研究協議会が開催された。教団宣教研究所と東中国・西中国・四国・九州・沖縄の各教区の宣教研究部門の代表が集まって、各々の研究課題や働きについて報告しあい協議するものである。年に一度、担当教区が企画して他諸教区を招いて実施する。今回は九州教区が担当。沖縄教区は2002年以来「教団と距離を置く」との立場から公式には代表派遣しておらず、今年も爾余四教区と教団宣教研究所からの出席となった。

一日目は、開会礼拝の後、九州教区の牧村元太郎委員より同教区宣教研究所が研究課題として

1月27～28日九州キリスト教会館にて第59回西日本5教区合同宣教研究協議会が開催された。教団宣教研究所と東中国・西中国・四国・九州・沖縄の各教区の宣教研究部門の代表が集まって、各々の研究課題や働きについて報告しあい協議するものである。年に一度、担当教区が企画して他諸教区を招いて実施する。今回は九州教区が担当。沖縄教区は2002年以来「教団と距離を置く」との立場から公式には代表派遣しておらず、今年も爾余四教区と教団宣教研究所からの出席となった。

一日目は、開会礼拝の後、九州教区の牧村元太郎委員より同教区宣教研究所が研究課題として

（牧村元太郎報）



▼年金局理事会▲

常任理事 4 名の交代を承認

第43総会期第1回年金局理事会が、1月24日キリスト教会館会議室で、教区代表理事、監事、総幹事、東京教区支区代表、隠退教師を支える運動推進委員長ら総勢26名（一部オンライン参加）が出席して開催された。

今総会期では、関東、西東京、四国の3教区の推薦理事と常議員会推薦理事1名、計4名の交代があった。まず、招集者である中川義幸理事が年金局理事長に推薦され、満場一致で承認された。また渡邊義彦（東京代

表）、栗原修一（西東京代表）、数田安晴（常議員会推薦）、小川洋一（常議員会推薦）の各理事が常任理事に推薦され、理事長、網中彰子総幹事の6名で常任理事会を構成することの提案があり、承認された。続いて、資産運用諮問委員会委員長と制度検討諮問委員会委員長の推薦がなされ、それぞれが承認された。さらに、業務室長の辞任と後任の推薦がなされ、年度末に交代することが承認された。

3期7年目を迎えた中

も、年金局に対するさまざまな意見に配慮しつつ、与えられた使命を果たしていきたい」との挨拶があった。

各理事からの活動報告の場では、折々の謝恩日献金は減少傾向が続く中、当年度は4000万円の大台割れが懸念される。隠退教師を支える運動からの繰入金も前年度比減となり、2022年度より減額の教団からの繰入金については、さらに減額を求める声が、教団総会や教区総会などの場を踏まえて、半日の理事会を終えた。

（村山めぐみ報）

《第42総会期》常設委員会等委員選考結果

★招集者、○信徒（2025年3月13日現在）

《常設委員会》  
〔宣教委員会〕  
★小林克哉（札幌）、具志堅篤（読谷）、小宮山剛（逗子）、須賀工（越谷）  
〔教師委員会〕  
★福島純雄（福島）、内城恵（羽咋）、願念望（白鷺）、齋藤篤（仙台宮城野）、清藤淳（松沢）、町田さとみ（初雁）、宮川経宣（大和郡山）  
〔信仰職制委員会〕  
★田邊由紀夫（大曲）、伊藤英志（三軒茶屋）、井ノ川勝（金沢）、上原智加子（八幡鉄町）、小泉健（東京神学大学）、高橋爾（須磨月見山）、三ツ本武仁（香里）  
〔教師検定委員会〕  
★春原禎光（柏）、飯田敏勝（静岡草深）、上竹裕子（上野）、川島直道（錦ヶ丘）、武久盾（住道一粒）、成田いっし（磐上）、横山良樹（半田）  
〔予算決算委員会〕  
★宇田真（岩村田）、川村尚弘（駒場エデン）、工藤俊一（有田・伊万里）、佐野明子（塩谷一粒）、田村毅朗（東村山）、古旗誠（目白）、古澤永愛（世界宣教委員会）  
〔社会委員会〕  
★廣石望（代々木上原）、ジョナサン・マッカーリー（那須塩原）、塚本吉興（福岡中部）、洛雲海（聖学院・奥沢）、白正煥（用賀）  
〔伝道委員会〕  
★中西真二（小阪）、荒井偉作（名取）、石井佑二（遠州）、片岡宝子（東中通）、鈴木善姫（海老蔵（東中通）、長山道（東京神学大学）、宮崎新（本郷）、松木進（花小金井）  
〔出版局理事・監事〕  
★横山ゆずり（半田）、阿部倫太郎（東和歌山）、石田真一郎（東久留米）、金南救（我孫子）、堀川樹（亀戸）、○中島あずさ（高倉栄光）、宣教協力学校協議会  
〔社会委員会〕  
子（むさし小山）  
★鈴木柝（大阪教区）、監事○金本伸二郎（武蔵野）、○物井恵一（小松川）  
《年金局理事・監事》  
理事★○中川義幸（阿佐ヶ谷）、○小川洋一（石神井）、○数田安晴（西片町）、○卜部康之（千歳栄光）、○遠藤清賢（江刺）、○高橋嘉男（名取）、○豊川昭夫（越谷）、渡邊義彦（柿ノ木坂）、○栗原修一（小金井緑町）、○沖田忠子（横浜港南台）、○兵藤辰也（中遠）、○辻康（四日市）、○谷本聰子（今津）、○黒野忠和（東海田）、○小笠原務（東灘）、○宮脇俊昭（倉敷）、○野口菊義（大島）、○小林秀樹（松山城北）、○坂上剛（長崎馬町）  
監事○川添裕一（自由が丘）、七條真明（鎌ヶ谷）  
《部落解放センター運営委員会・監事》  
★鈴木柝（大阪教区）、齋藤開（旭川豊岡）、○上原恵（三木）、○加藤恵飯塚拓也（竜ヶ崎）、○高橋真軌（信濃町）、縣洋一（中野桃園）、佐藤貴仁（厚木上）、宮本義弘（沼津）、安達正樹（名古屋新生）、深見祥弘（近江八幡）、木村知樹（西宮門戸）、○山内英子（湖山）、塩見和樹（広島観音町）、成田信義（土佐）、藤原仰（延岡三ツ瀬）、沖縄教区、活動委員長監事○未定

◆農村伝道に関する協議会◆

農村伝道とはフロンティア伝道

第12回農村伝道に関する協議会が2月18・19日、アジア学院にて開催され、教区推薦者8名、自主参加者3名、伝道委員と担当幹事、職員9名の合計20名が参加した。

アジア学院は栃木県那須塩原市にある1973年創立の国際人材育成機関であり、アジアやアフリカなどから毎年農村リーダーを学生として約25・30名受け入れ、9カ月の指導者研修を行っている。最大の特徴は学院の農場で有機農業によりほぼ全てを自給していることにある。

開会礼拝の後、この学院内を見学し、荒川朋子校長の主題講演「フロンティアで生きる」に耳を傾けた。農村伝道とはフロンティア（辺境）伝道。「辺境」に仕えるとは、中心から一番遠い、虐げられた人々に仕えること。そうであるなら、そこがたとえ農村ではなくても私たちは皆フロンティア伝道者であると感じた。

講演の後にはペアになり、自身の「辺境」を思い巡らし・分かち合い、最後にお互いに御言葉を贈るワークショップをすることで、聞いて終わりでなく自分のこととして深めることができた。

夜の発題は那須セミナーハウス管理人のルイ・パ・ヴェロ宣教師。故郷インド、ナカランド州の自然や文化、生活を生き活きと語ってくれた。

二日目は全体会を開き、各教区の取り組みや今回の感想を分かち合った。



荒川校長による主題講演と、礼拝堂での集合写真

2025年教区総会日程（3月13日現在）

教区	会期	会場	問安使
北 海	5月 6日（火）13:00 ～ 7日（水）15:00	札幌北光教会	雲然俊美
奥 羽	5月20日（火）12:30 ～21日（水）15:45	奥羽キリスト教センター	網中彰子
東 北	5月27日（火）10:30 ～28日（水）16:00	仙台青葉荘教会 東北教区センター・エマオ	黒田若雄
関 東	5月20日（火）10:00 ～21日（水）16:00	大宮・ソニックシティ小ホール	雲然俊美
東 京	5月27日（火）10:00～19:00（予定）	富士見町教会	黒田若雄
西東京	6月 1日（日）15:00 ～ 2日（月）17:00	阿佐ヶ谷教会	網中彰子
神奈川	6月21日（土）10:00 ～16:00	清水ヶ丘教会	黒田若雄
東 海	5月27日（火）13:00 ～28日（水）15:30	静岡教会	雲然俊美
中 部	5月20日（火）13:00 ～21日（水）13:00	名古屋中央教会	藤盛勇紀
京 都	5月16日（金）10:00 ～17日（土）12:30	平安教会	藤盛勇紀
大 阪	5月 5日（月）12:30 ～ 6日（火）16:00（予定）	大阪女学院ハールチャペル	藤盛勇紀
兵 庫	5月18日（日）16:00 ～19日（月）17:30	神戸教会	雲然俊美
東中国	5月26日（月）13:00 ～27日（火）15:00	蕃山町教会	網中彰子
西中国	5月20日（火）13:30 ～21日（水）16:00	広島流川教会	黒田若雄
四 国	4月29日（火）13:00 ～30日（火）15:00	松山教会	網中彰子
九 州	5月 6日（火）13:30 ～ 8日（木）12:00	福岡中部教会	黒田若雄
沖 縄	5月25日（日）16:30 ～26日（月）16:00	沖縄キリスト教センター	雲然俊美 藤盛勇紀



## 2.11 集会報告

### 【九州教区佐賀地区】

## 守り通すことの重みを噛みしめて

佐賀地区では毎年、2月11日に「2・11信教の自由を守る日」集会を行っています。

今年は第二次世界大戦終結から80周年を迎えます。世界の色々な国や地域で、それぞれの立場からこの年を記念します。一方では敗戦・挫折・失敗・占領。もう一方では勝利・成功・解放…。

誰もが、どこに立ってこの年を迎え、次の一歩を踏み出すのか問われています。わたしたち日本の信

仰者は、80年前、日本国憲法が施行され、信教の自由が保証され、誰もが自由に信仰生活を送ることが

できる恵みをいただいていた、その原点に立ち帰るべきとの思いをもつて、

参集者一同で開会礼拝をささげました。その後、秋永好晴教師（久留米榎原教会牧師）を講師に迎え、「バルメン宣言

と私たちの信仰」と題して講演を聴きました。先生からバルメン宣言成立の歴史的経緯、教会闘争の意義、また同宣言の6つのテーゼについて深く学びました。

昨年はバルメン宣言が決議されて90周年でしたが、バルメン宣言について初めて耳にする人も幾人かはいたようでした。

しかし、講演を通してマルティン・ニーメラーが神さまから問われ続けた「正しく福音を語らな

かった責任」の問題と、この宣言の起草に関わったカール・バルトの「明確さなしには何ら決断し

たことにはならないし、決断なしには何らの平和もありえない」という言葉が聴く者の胸に強く迫り、改めて信仰・信教の自由を守り通すことの重みを噛みしめさせられました。

当日は、九州教区と共催の「地域と教会」伝道協議会が同日開催された

こともあり、地区内6教会、地区外10教会から41名が共に集い、平和への

思いと、真実なる神さまに対する信仰を新たにすることができました。昼食を共にし、午後の一時、

少人数の分団に分かれて意見を交わし、思いを分かち合うこともできました。主にある恵みに満ちた一日でした。感謝（工藤俊一報）



41 名が共に集う

### 【四国教区南予分區】

## 関心と意思表示こそ解決の希望



「パレスチナ問題解決の希望」と題して

2月11日、八幡浜教会を会場に四国教区南予分區2・11信教の自由学習会が開催された。講師に山本光一氏（隠退教師）を招き、33名が集った。テーマは「パレスチナ問題解決の希望」。出席者には会員の友人なども含まれており、関心の高さがうかがえた。

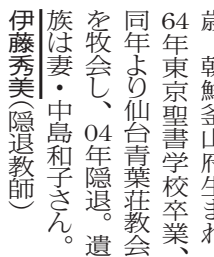
山本氏は最後のパレスチナ訪問から帰国しておよそ10日後に紛争が始まったとのこと、パレスチナ現地での出会いや

経験から鳥瞰図ではなく「虫瞰図」で語ってくださった。ハマスとイスラエルの戦争の原因はイスラエルによる入植民地主義、占領戦略であり、

絶望的だが諦めてはいけないうの言葉で始まった講演では、抑圧され過酷な状況にあっても明るさを失わず、決して諦めないパレスチナ人の姿勢や、イスラエルにおいて占領政策に反対するユダヤ教のラビたちがいることを知らされた。ヘブ



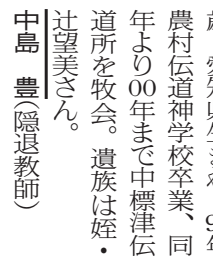
24年9月25日逝去、89歳。東京都生まれ。63年米国ウエスレー神学校大学院終了、64年より豊分教会を牧会し、69年よりアメリカ合衆国の教会に赴任し、マリアワ合同メソジスト教会を経て03年隠退。遺族は妻・伊藤笙子さん。



25年1月24日逝去、86歳。朝鮮釜山府生まれ。64年東京聖書学校卒業、同年より仙台青葉荘教会を牧会し、04年隠退。遺族は妻・中島和子さん。



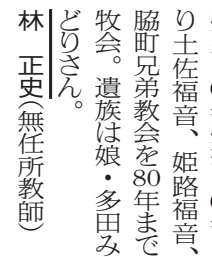
25年2月11日逝去、72歳。東京都生まれ。85年日本聖書神学校卒業、86年より98年まで境港教会を牧会。遺族は妻・山本潤子さん。



25年1月29日逝去、83歳。静岡県生まれ。67年東京神学大学大学院修了、同年より西新井、安藤記念教会を牧会し、16年隠退。遺族は妻・佐野恒子さん。



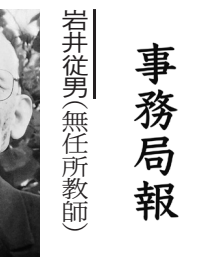
25年1月29日逝去、83歳。静岡県生まれ。67年東京神学大学大学院修了、同年より西新井、安藤記念教会を牧会し、16年隠退。遺族は妻・佐野恒子さん。



25年1月29日逝去、83歳。静岡県生まれ。67年東京神学大学大学院修了、同年より西新井、安藤記念教会を牧会し、16年隠退。遺族は妻・佐野恒子さん。



25年1月29日逝去、83歳。静岡県生まれ。67年東京神学大学大学院修了、同年より西新井、安藤記念教会を牧会し、16年隠退。遺族は妻・佐野恒子さん。



25年1月29日逝去、83歳。静岡県生まれ。67年東京神学大学大学院修了、同年より西新井、安藤記念教会を牧会し、16年隠退。遺族は妻・佐野恒子さん。

### 事務局報

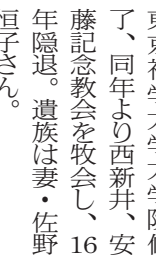
岩井從男（無任所教師）



21年9月19日逝去、94歳。香川県生まれ。60年受允、64年受按。61年より土佐福音、姫路福音、協町兄弟教会を80年まで牧会。遺族は娘・多田みどりさん。



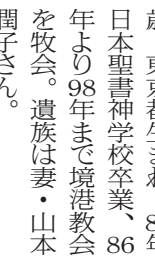
25年1月29日逝去、83歳。静岡県生まれ。67年東京神学大学大学院修了、同年より西新井、安藤記念教会を牧会し、16年隠退。遺族は妻・佐野恒子さん。



25年1月29日逝去、83歳。静岡県生まれ。67年東京神学大学大学院修了、同年より西新井、安藤記念教会を牧会し、16年隠退。遺族は妻・佐野恒子さん。



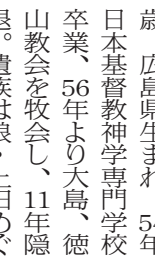
25年1月29日逝去、83歳。静岡県生まれ。67年東京神学大学大学院修了、同年より西新井、安藤記念教会を牧会し、16年隠退。遺族は妻・佐野恒子さん。



25年1月29日逝去、83歳。静岡県生まれ。67年東京神学大学大学院修了、同年より西新井、安藤記念教会を牧会し、16年隠退。遺族は妻・佐野恒子さん。



25年1月29日逝去、83歳。静岡県生まれ。67年東京神学大学大学院修了、同年より西新井、安藤記念教会を牧会し、16年隠退。遺族は妻・佐野恒子さん。



25年1月29日逝去、83歳。静岡県生まれ。67年東京神学大学大学院修了、同年より西新井、安藤記念教会を牧会し、16年隠退。遺族は妻・佐野恒子さん。

### 教師検定試験公告

2025年秋季教師検定試験を左記の要領で行います。

一、受験要綱の申し込み

受験要綱と教団指定の願書用紙は165円切手を同封し、正教師受験志願者か補教師（A、B、Cコースの別も）受験志願者かを明記した上、封書でお申し込みください。4月1日以降にお渡しします。

二、受験願書の提出

受験願書と必要書類を整えて、受験料とともに所属教区に提出してください。

①教区締切 2025年6月6日（金）

（教区により締切が異なりますので、教区事務所に確認してください）

②教団締切 2025年7月3日（木）

（各教区から教師検定委員会に提出する際の締切です）

\*受験料は正教師1万3千円、補教師1万円。

三、正教師「説教」「釈義」の課題テキスト

①旧約 イサヤ書43章1〜7節

②新約 マルコによる福音書14章32〜42節

四、正教師の「神学論文」の課題

『今日における宣教の課題』に、特に「をめぐって」という副題をつけ、ご自分の伝道・牧会をふまえて神学的に論述してください。

五、正教師の「組織神学」の課題

復活について、教会形成の視点から組織神学的に論述してください。

六、補教師「説教」「釈義」の課題テキスト

①旧約 申命記6章1〜9節

②新約 マタイによる福音書15章21〜28節

\*コースによって「説教」「釈義」の提出内容が異なりますので、必ず受験要綱でご確認ください。

七、補教師（CⅢコース）の牧会学の課題

『牧会とは何か』について神学的に論述してください。

八、提出物締切について

当委員会への提出締切日は、「説教」「釈義」「神学論文」「組織神学」「牧会学」全て2025年7月4日（金）午前必着です。

九、学科試験・面接試験について

学科試験は9月16日（火）、面接試験は9月17日（水、18日（木）に大阪クリスチャンセンターにおいて実施します。詳細は受験志願者に通知いたします。

2025年3月22日

日本基督教団教師検定委員会

〒169-0051

東京都新宿区西早稲田2-3-18-31

電話 03-3202-0546





左から 2 人目が筆者

「久宝寺」という地名のこの地域には古くから仏教寺院が多かったそうですが、初代牧師の小林達夫さんは、1959年に神学部卒業後に自宅で伝道所を開設するにあたって、あえて「久宝寺」という地名から「寺」の字を抜いて「久宝伝道所」と名乗ったそうです。久宝伝道所では、教会学校の活動の一環として、1961年から「ボーイスカウト」「ガールスカウト」活動が始められ、多くの青少年が活動に参加していました。また「赤ちゃんを預かってくれる所がないので、仕事ができない」と一人の女性から相談されたことをきっかけとして、1964年には自宅兼伝道所で無認可保育事業「乳幼児ベビーセンター」が始まりました。またベビーセンターの子どもたちやスカウトの子どもたちに、混ぜ物のない良質の牛乳や卵を食べて欲しいとの思いから、共同購入事業も始め、小林牧師夫妻は毎朝早くから牛乳や卵などの配達を行い、帰宅すると休む間もなく子どもたちの受け入れをする、という生活だったそうです。そのような中、社会福祉法人（認可保育園）設立の話が持ち上がり、伝道所の青年たちによる英語学校、塾、本の販売、共同購入事業などで少しずつ集めて来た資金と、教団からの会堂建築資金、また近郊の八尾空港で「宣教するパイロット」として職域伝道されていたトリーヤ宣教師夫妻からの献金を合わせて、1974年に社会福祉法人日本コイノニア福祉会が設立され、ベビーセン

ターは新しく園舎（兼礼拝堂）が建築されて「久宝まぶね保育園」となりました。久宝伝道所・日本コイノニア福祉会は、聖書の中に記されている「あなたの隣人を自分のように愛しなさい」という言葉や、「この最も小さな一人にしたことは、私（神）にしたことなのである」という言葉に基づいて、地域のニーズに応える形で、保育や介護のいくつもの事業所を開設したり、他法人から事業承継したりして、現在に至っています。久宝伝道所は1997年に久宝教会となりましたが、教会や社会福祉法人を立ち上げた頃の方が、次々と天に召されて行く中、今では主日礼拝に出席できる方はわずか数人になってしまいました。また保育や介護に携わっている職員にはクリスチャンはほとんどおられません。ですが、日本コイノニア福祉会の諸施設と今も関係が続いている久宝教会として、職員の方々には「今、目の前におられる方々を大切にしたい」という思いやりをもって接する中に、神様が共に働いて下さっています。そのことに信頼するのが、キリスト教福祉の業です」と折々にお伝えしています。現在は、久宝まぶねこども園の一室で主日礼拝を守っていますが、園での生活を通して、こども園の子どもたちやご家族の方々、また職員たちがキリスト教に触れて下さることを嬉しく思いますし、また近郊の緑地公園へと散歩に行かれる方々が教会の掲示板を見て、礼拝に来てくださることもあり、コロナ禍で始めた礼拝のオンライン配信と併せて、小さいながらも歩みが守られていることに感謝を覚える日々です。

## 伝 道 報 告

七十二人は喜んで帰って来て、こう言った。…イエスは言われた。「あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。」  
ルカによる福音書第10章17節～20節

伝道推進室より応援した教会・伝道所

## 「この地にある教会」久宝教会の歩み

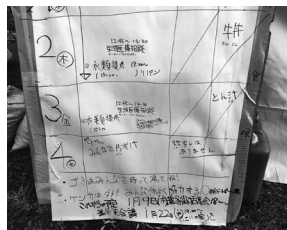
久宝教会牧師 牛田 匡

「ボーイスカウト」「ガールスカウト」活動が始められ、多くの青少年が活動に参加していました。また「赤ちゃんを預かってくれる所がないので、仕事ができない」と一人の女性から相談されたことをきっかけとして、1964年には自宅兼伝道所で無認可保育事業「乳幼児ベビーセンター」が始まりました。またベビーセンターの子どもたちやスカウトの子どもたちに、混ぜ物のない良質の牛乳や卵を食べて欲しいとの思いから、共同購入事業も始め、小林牧師夫妻は毎朝早くから牛乳や卵などの配達を行い、帰宅すると休む間もなく子どもたちの受け入れをする、という生活だったそうです。そのような中、社会福祉法人（認可保育園）設立の話が持ち上がり、伝道所の青年たちによる英語学校、塾、本の販売、共同購入事業などで少しずつ集めて来た資金と、教団からの会堂建築資金、また近郊の八尾空港で「宣教するパイロット」として職域伝道されていたトリーヤ宣教師夫妻からの献金を合わせて、1974年に社会福祉法人日本コイノニア福祉会が設立され、ベビーセン

## 寄せ場からの声

《ささしま共生会／第50回名古屋越冬活動》

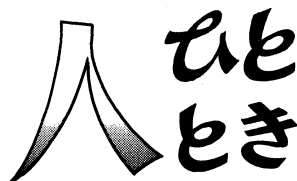
## 安心の時と場を創り出すため



© 名古屋越冬実行委員会より提供

12月28日から1月4日の朝まで、越冬活動が天津橋小園で行われ、愛知西部地区は28日と3日、夕食作り・配食等に参加した（名古屋越冬実行委員会主催、以下、実行委員会）。今回はカトリック、日本聖公会、日本福音ルーテル教会、ボランティア団体等と共に持ち回りで担当した（最多の日124名、最少の日71名、平均94名）。会場では焚火で暖を取り、食事や衣料の提供、医療や法律の相談、正月の楽しい出し物も行われる。インターネットでの利用呼び掛けや、街頭でのアピール、会場に來られない方へ食糧や衣料を届ける訪問活動も行われる。この期間に名古屋市が用意する宿泊施設と利用希望者をつなぐ役割も実行委員会が担う。こうした細やかな支援から会場運営・撤収等の作業まで当事者の皆さんや実行委員会、ボランティアが担っている。初めて訪れた利用者が「支援に頼らず仕事を探して」最後まであがき続けた」とお話しされたそう。結果として支援を要する人ほど、自分を厳しく責めているように感じる。「助けてほしい」と苦境を伝える（弱音を吐く）ことは恥ずかしい・情けない・悪いと、わたしたちは思い込まされている。「炊き出しは」強い人が威張って皆を支配するのでなく、弱い人に任せていこうということですが。それを見ると安心します。なぜなら、自分が弱くなった時にも、そうしてくれろと感じられるから」2023年末に急逝した林正史牧師は、数年前の越冬活動でこう語られた（『中部教区通信』151号でも紹介）。「助けて」との声を、「大変でしたね」との労いとともに受け入れる場が越冬活動。「ここで自分は支えられた、だから自分も」そんな想いを、さりげないやり取りから感じる。こうした安心の時と場を創り出すため、当事者の皆さんや実行委員会、多くの人が仕えている。

(岡 健介報)

こばやし けいた  
小林 啓太さん

## さいはての町で



浦安教会員

石川県能登半島最北端の緑剛崎灯台のある、さいはての町・珠洲市。2024年1月に発生した能登半島地震後の支援活動を担っているボランティアキャンプ珠洲（通称：ボラキャン珠洲、石川県珠洲市蛸島町鉢ヶ崎）にコーディネーターとして働く小林さん。発起人たちと業務提携している企業に支えられながら、井戸掘りプロジェクトから始まったこの活動に、地震1ヶ月後から現在まで働いている。

自分にできることはないか、という声をあげたことから始まった。食堂を兼ねている事務所のテントに入ると、被災者たちの要望が書かれた

ホワイトボード。地震後1年経過した今も、泥だし作業や家の片付け、材木や畳運び、家電・家財搬出や倉庫の片付け等50件以上の依頼がある。珠洲市でも海に近い飯田地区、宝立地区は壊滅的であったという。その中で、形をどうしているものを心込めて再生していくという働きがある。キャンプ場の真ん中に、輪島塗りの器が山積みある。輪島塗りをきれいに洗浄し再生していくのだ。

地元の方は、できれば石川で元旦を迎えたくないという声があったという。しかし、

家の解体を迷われているような方もある。この町を愛し、懸命に生きようとしている人々に寄り添いつつ、支援していきたいと語る。

1年たつとニーズも変わり、フェーズも変わってくる中で、今後のことを見極めていかなければならないという。まさに、いついかなる時にも、神様に支えられている実感があるから続けられる。

小林さんが浦安教会に久しぶりに戻った昨年の夏。教会員の方がこの働きのために祈ってくれた。祈りに支えられて今の自分があるという。

## 想い出から日常へ

牧師になってから初めて出席した同窓会で、会場に入るなり「皆々私たちが何があっても大丈夫なアミを神さまにお捧げしたから〜！」との声。「あのね、一人捧げると全員救われる仕組みじゃないから」「そうなの？（笑）」そんな彼女は、私が不定期で説教奉仕をしていた教会のクリスマス・イヴ礼拝に2回出席してくれた。讃美歌を聴くと色々想い出がよみがえるという。同窓会を短い礼拝から始めたいと頼まれたので終わりに「では久しぶりの方もいるで

飛びかった。

賛美や祈りを想い出に封じ込めるのではなく、今を生きるものとするには、聖霊の導き以外、信仰者に何が出来るだろうか。

『主イエスの洗礼は、神さま

(教団総幹事 網中彰子)

がわたしたちに差し出してくださった手です。(略) わたしたちができる最善のことは、感謝してその手を取る事です。だからわたしたちも、洗礼を受けるのです』『イエスの歩み31私に倣いなさい』吉村一雄著／日本キリスト教団出版局。洗礼は大切だが難しくも遠くもない。主で自身が近くにおられる喜びが全ての教会に与えられている。祈り、身近な救いを知らせたい。12年ぶりの同窓会の知らせ。祈りが結実しますように。